

Dream plan

令和4年度ドリームプラン

グループ展「Quartet」

東京家政大学 家政学部 造形表現学科 4年

N. Y. K. M. N. R. H. R.

カルテット

Quartet

Quartet exhibition

kotori
@cha_koma_cha

にゃー
@Hako_neko_box

2月
@kukkii_koucha

tadano
@tadano_gn

About
展示について

4人のメンバーで構成されたグループ展。
それぞれの個性が創り出す4つの世界を
お楽しみください。

※ 各メンバーの在館日時、物販商品、
その他展示作品情報につきましては
メンバー個人のTwitterにお問い合わせ
ください。

12.20 Tue
|
12.26 Mon
11:00 - 20:00
デザイン・フェスタ・ギャラリー 東館
DESIGN FESTA
GALLERY EAST 102

展示会キービジュアル・DM

1. 実施概要

展示会名称：「Quartet」

実施場所：原宿デザインフェスタギャラリー EAST102

実施期間：2022 年 12 月 20 日～2022 年 12 月 26 日

展示概要：イラストを等身大パネルや壁貼りパネルに使用した没入感のある展示、物販を開催。

2. 開催経緯・応募理由

元よりイラストレーションを使用した作品に興味があり、大学4年間を通して様々な展示会などに足を運んでいた。その中で、世界観を大切にした立体パネルを使用した展示に強く惹かれた。惹かれると同時に、いずれそのような展示を自分もしてみたいという思いを抱えていたため今回ドリームプラン奨学金にて展示を実行するに至った。

大学1年生の後半頃よりドリームプランを使用しての展示会を考えており、2年次または3年次を想定していたもののコロナ禍により断念。大学卒業までには展示会をしたいという強い思いから4年次の今回、応募に踏み切った。

応募に際し、以前から共にイベントや学祭に出展していた友人3人に声をかけ快諾をもらったためこのメンバーでの展示が決定した。

タイトルの「Quartet」は、英語で四重奏という意味を持つ。それぞれ全く違ったタッチを持つ4人が4つのブースに分かれて展示することにより新たな楽しみ方や魅せ方が出来るのではないかと感じこのタイトルに決定した。

3. 展示内容・感想

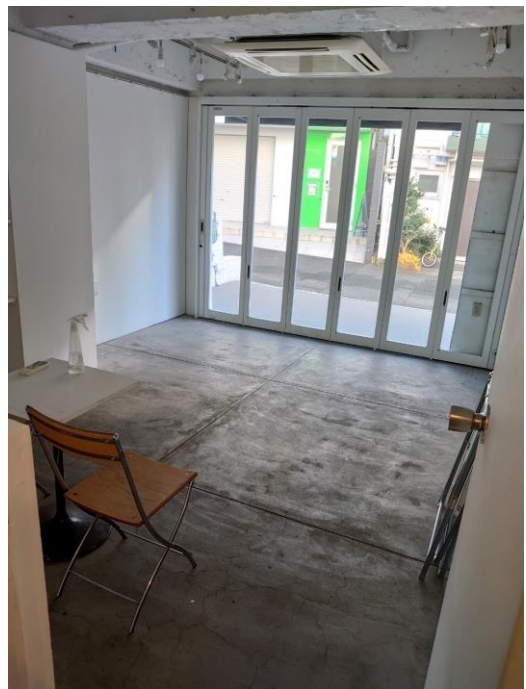
本展示では、1つの部屋を4つのブースに区切りそれぞれのブースに等身大パネルを1体以上立てて世界観を演出するといった展示方法をとった。

各ブース内の展示詳細については、各個人に委ねられているためここでは1人1人がそのコンセプトや感想について述べていく。

○全体展示の様子



搬出時



搬入前会場内



設営完了時会場内

○K. M.

今回はおとぎをテーマとして制作。展示に来た人に自分のことを知って欲しいと思った為、よく描く子たちがテーマに当てはまるよう設定した。壁パネルには既存のイラストを3枚使用し、新しく4枚と立体パネルを制作した。たくさんのイラストを見てほしかった為壁パネルの大きさは小さくし、数を増やした。また、いつも描いているイラストが正方形のため、パネルも正方形加工を行った。自ブースが寂しくならないよう壁の余白には気をつけた。壁パネルの他に、水彩色鉛筆での作品やイラストの切り抜きを展示した。また、展示会らしさを出すために作品の小断をつけたキャプションも制作した。

等身大パネルについては看板娘を作る気持ちで制作した。テーマ同様自分のことを知って欲しいと思ったので一番好きな魔法使いを描いた。また来た人を歓迎したいと思ったので、お花を手渡すようなおぼけと共にした。

全体を通してふんわりとしたファンタジーさを意識した。

自分のイラストで展示ブースを飾ることができとても嬉しかった。直接人に見てもらう機会なんてそうそうにないため、すごく良い経験をしたとも思う。当日も楽しかったが、展示までの構成を考えたり、準備をしたりと自分で自分をプロデュースしている時間がとても楽しかった。今までネットを通してしかイラスト公開したことがなかったが、人に会い、見て、言葉をもらうことで描いていくことが自分の中で宝物になった。

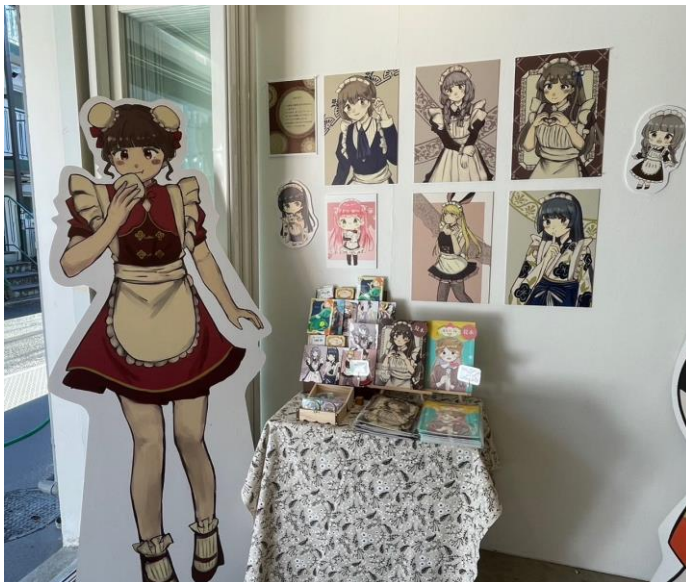
また、今展示会を通して友人にはとても感化された。作品に込められた想いやみんなの取り組み姿勢を目の当たりにして自分も、という気持ちになっていた。すごく良い友人に恵まれたと思う。自分1人の展示会ではここまでできなかつたろう。友人と作り上げることができて本当によかった。また展示会ができるようこれからも作り続けていこうと思う。



○N. R.

私はメイドの女性をテーマに作品制作を行った。コンセプトは、日本には実在しないメイドの女性の魅力を知ってもらふことだ。そのため、「maid collection vo.1」という題名で本の制作とイラスト展示を行った。メイドにも種類があり、実在するクラシカルスタイルのメイドとアレンジを含むチャイナ・袴・パニーガールスタイルの衣装、計4種類の衣装の女性を描いた。その際に意識したことは、人物の性格や人生の背景を考えて描くことだ。そうすることで、表情やポーズにもそれぞれ違いが出るため受け手がメイドの世界観に入り浸れると考えたのだ。

今回展示を行って感じたことは、自分の好きを共有できることが楽しくもあり、学びにもなるということだ。4人の作品の世界観は全く違うが、1人1人に良さがあリコンセプトを聞くことも面白い。同じテーマでも視点を变えるだけで違う作品が生まれるだろう。今後もイラストを描き、その時に感じる楽しさや学びを大切にしていきたいと思う。また、等身大のスタンドパネルはインパクトがあり、パネルを見て興味を持ち、展示会場を覗く方も多いと感じた。初めて等身大パネルを制作したが、存在感があり展示会場に活気をもたらししていた。今回の展示の経験を活かし、これからも作品を自ら発信していくことに努めたい。



○N. Y.

大学2年生の頃から行ってきた創作活動の集大成として自身の創作の展示会、オンリーショップのようなものを意識して制作した。

額縁に入れているイラストはキービジュアルとして新規に描き下ろした作品である。「この作品がゲームやアニメーション映画になったら」というコンセプトから、実際に使用されていたアニメのキービジュアルやゲームのキービジュアルを参考にキャラクターの配置や画面の構図を決定した。等身大パネルは最初期に考案した2人を等身大パネルに印刷。壁面には、キャラクターの卓上をイメージしたキャラ関係図を制作し展示した。

また、展示内容をまとめたパンフレットも制作した。キービジュアルイラストのメイキングやこれまで制作してきた作品のまとめ、過去に制作したキャラクター設定集を収録した。

SNSで告知するに伴い、展示会場での物販告知画像も制作した。暗めの世界観のため、黒を基調に色を決め、価格の見やすさを意識して制作した。

展示会場には家族の他、SNSでのフォロワーや以前に依頼をいただいたクライアントなどに足を運んでいただくことができた。また、感想ノートにも温かいコメントをいただくことができ、今後の活動の励みとすることが出来たと感じる。



○H. R.

ブース作りで意識したことは世界観作りだ。展示テーマの **Quartet** の一員として来場者を自分の世界観に引き込みたかった。そのためパネル展示は賑やかな雰囲気で見やすい印象を与えるために敢えて整列させずに角度に差異を出した。

私の作品シリーズはねこをモチーフとしているためやわらかく優しいタッチを目指している。このキャラクターたちは元々育ちのための表現という授業の課題で絵本を制作した際に生まれたキャラクター達だ。今回はグッズ制作と展示を行ったが、物販で販売したグッズは今年の緑苑祭で販売したシリーズを更に展開させたものだ。昨年のコロナ禍でのオンライン開催となった緑苑祭で初めてグッズ化され、それが今年の緑苑祭とこの展示を経て私の作風として確立されていった。今まで自分の作品を人に見てもらう機会は SNS にファンアートを掲載する程度で、自分のオリジナル作品で創作活動した経験はなかった。緑苑祭と今回の展示に参加したことによって自分の作品を人に見てもらいたい、一からものづくりをしてみたいという意欲が湧いてきた。ただ誰かの作品を見ているだけでなく、クリエイティブな同級生たちと共に活動することで自分も挑戦してみたい・自分の活動の場を広げたいと刺激された。これから卒業が控えており、ものづくりから離れた業界に携わる。それでも自己表現と創作をこれからも続けていきたいと思う。



4.まとめ

今回の展示を通して、自分自身の4年間の集大成を出すことが出来たと感じている。大学で学んだ知識と独学で学んだ知識それぞれを活かして展示をすることができた。そしてやりがいや自信に繋がると共に、今後の活力へと繋げることもできたと思う。また、参加メンバーからも今回の展示を通して卒業後も制作を続けていきたいという前向きな意見をもらうことが出来、私自身はもちろんメンバー全員にも良い効果をもたらせた展示であると感じたい。

また、今回は途中から展示の期間を3日の予定から1週間へ変更した。そのため、ギャラリーの空いていた日程から年末を選択し1週間へと会期を延長した。その結果、偶然にもクリスマスというイベントを挟んだりとしたためより多くの来場者に足を運んでもらえることとなったと感じる。展示に使用した部屋も一階の外から見える入りやすい場所を借りたため様々な方に展示をみていただくことができる結果となった。これらのことから今回展示会の主催を経験し、作品制作以外にもギャラリーの日程確保や予約、参加者のマネジメントなど様々なスキルを培う機会となったと感じた。これから社会人として活躍する際にもこういった経験を活かしていきたいと考える。

今回の経験は人生の中でもとても貴重な経験となったと思う。同時にこの奨学金が無ければ叶わなかった夢でもあると感じた。様々な形で展示に携わっていただいた全ての方に感謝をしたい。

